

2025 つながるフェス

～サガジョ盛り上げ隊プロジェクト～

Q. プロジェクトではどんなことを行うんですか？（メディア情報学科・2年生）



さがじょの魅力をもっともっと知ってもらうために、何ができるのかというところから考えていきます！（生活デザイン学科・4年生）

Q. このようなプロジェクトに参加したことがないため、番最初に参加しやすいプロジェクトはありますか？（日本語日本文学科・1年生）



このようなプロジェクトに参加した経験がない方でも、比較的参加しやすいのは、地域に移動することなく大学内で活動できるサガジョ盛り上げ隊プロ

ジェクトだと思います。（英語文化コミュニケーション学科・2022 年度卒業生）

Q. 1人で参加することに不安があるのですが、参加されている方はどのような方が多いですか？（日本語日本文学科・1年生）



卒業された先輩方も含め、自分から何かを発信する事が好きな方が多いような気がします。また、さがじょの良さをもっと知りたい、もっと知ってもらいたいと思っている方が多いです！（生活デザイン学科・4年生）



プロジェクトによってそれぞれ違うと思いますが、サガジヨ盛り上げ隊プロジェクトでは、何かをやりたいと思い参加している人が多かったと思います。一人で参加するのに勇気があるかもしれませんが、大丈夫です！中には一人で参加する人も沢山います！私はプロジェクトを通して仲良くなっていきました。（健康栄養学科・2022 年度卒業生）



1人で参加することに不安を感じる方も多いですが、実際には1人で参加している学生もたくさんいます。活動を通して自然と交流が生まれ、すぐに仲間ができて楽しく活動できると思います。ぜひ、勇気を出して一歩踏み出してみてください。（英語文化コミュニケーション学科・2022年度卒業生）

Q. 参加することのメリットとデメリットはありましたか？

（日本語日本文学科・1年生）



メリットは、さがじょの良さをいかにして伝えるか、自分から企画をする事ができるということです！デメリットは、学科の勉強が忙しいと両立は難しいと感じました。（生活デザイン学科・4年生）



メリットは、人との交流が広がること、人生の糧になること。デメリットは、プロジェクトにかける時間が多かったので、他のことに時間をかけづら

くなったことです。(健康栄養学科・2022 年度卒業生)



参加することのメリットは、人として大切な力が身につくことです。例えば、目標を達成するために仲間と協力する力や、相手に分かりやすく伝えるための発信力などが挙げられます。また、人脈が広がり、人間関係が固定化されず、さまざまな人の考えに触れられることも大きなメリットの一つだと思います。一方で、デメリットとして考えられやすいのは時間の拘束です。しかし、プロジェクト内で活動時間をしっかりと決め、限られた時間の中で取り組むことができれば、大きな負担にはならないと感じています。そして、何かを成し遂げたときの達成感は、参加したメンバーにしか味わえない、かけがえのない財産になると思います。(英語文化コミュニケーション学科・2022 年度卒業生)

Q. 授業と被ってしまった場合、どうされていましたか？

(日本語日本文学科・1年生)



私がいる時は、ミーティングなどの議事録などを共有していました。なので、授業と被ってしまった場合は、共有した内容を確認するといった形でプロジェクトに参加していたと思います。(健康栄養学科・**2022** 年度卒業生)



授業を優先すべきだと思います。授業が重なり対面で参加することが不可能でも、事前に考えを共有したり、別の形で関わるができる場合もあると思います。(英語文化コミュニケーション学科・**2022** 年度卒業生)

Q. 大学在学中にプロジェクトに加入したいと考えています。現地での活動に特に興味がありますが、コスト面が心配です。加入したきっかけや経緯を教えてください。

(人間心理学科・1年生)



今の私に必要な内容だ、と思って入りました。(健康栄養学科・2022 年度卒業生)



私がサガジヨ盛り上げ隊プロジェクトに参加した際は、特にコストがかかった記憶はありません。現地での活動に興味がある一方で、費用面が心配になる気持ちもよくわかりますが、経験にお金を使うことは将来につながる大切な投資だと思います。もし不安がある場合は、まずはコストのかからないプロジェクトから参加してみるのも一つの方法だと思います。(英語文化コミュニケーション学科・2022 年度卒業生)

Q. プロジェクトに参加したことは就職活動に活かせますか？

(日本語日本文学科・1 年生)



どのプロジェクトでもどんな姿勢で向き合うかが、大事になってきます。私はサガジョ盛り上げ隊プロジェクトで2年半くらい、リーダーをしていたので、その時の話をしました。プロジェクトに参加するなら、役割関係なく積極的に参加することが、とても大切だと思います。（健康栄養学科・2022年度卒業生）



私は教員採用試験を受験しましたが、大学時代のプロジェクト活動について直接聞かれることはありませんでした。しかし、職種や企業によっては、自分をアピールできる材料の一つになる可能性はあると思います。ただ、就職活動に活かすことだけを目的にするのではなく、大学や地域のために主体的に活動すること自体にも大きな意味があると感じます。（英語文化コミュニケーション学科・2022年度卒業生）

Q. 学業、アルバイト、プロジェクトの両立が難しく、来年からは就活も始まるのでどのように時間配分をしていたか教えていただきたいです。（人間心理学科・2年生）



タイムマネジメントはとても大切だと思います。私自身、大学時代はほとんど休む時間がないくらい活動しており、家に帰るのは寝るためだけという日もありました。しかし、そのおかげでさまざまな経験を積むことができ、社会人になった今、大きな財産になっていると感じています。もちろん、時には思いっきり遊ぶことも大切です。プロジェクト活動や学業、アルバイト、就職活動など、優先順位を意識して取り組むことが、無理なく両立するコツだと思います。（英語文化コミュニケーション学科・2022年度卒業生）

Q. プロジェクトメンバーを増やす為に行って良かったなと思う取り組みやイベントなどあれば教えてください。（英語文化コミュニケーション学科・3年生）



オンラインと対面同時説明会を複数日開催！（健康栄養学科・2022年度卒業生）



メンバー募集のために説明会を開きましたが、思ったほど人数は集まりませんでした。その経験から、ポスター掲示や SNS での発信など、より多くの人に情報を届ける工夫が効果的かもしれないと感じています。（英語文化コミュニケーション学科・2022 年度卒業生）

Q. プロジェクトで話を進める際に連絡を行っても返信がなく、話が進まないため一人で考えることがありました。そのような経験や、どのように対処すれば良いか教えてください。（健康栄養学科・2 年生）



連携教育推進課の職員さんと相談して、連絡手段を考えるかな、と思います。（健康栄養学科・2022 年度卒業生）



プロジェクトのメンバー間で活動に対する温度差が生じることもあるかと思っています。そのような場合でも、あきらめずに「一緒に活動したい」という自

分の意志を丁寧に伝え続けることが大切だと考えます。また、「誰かがやってくれるだろう」と思わず、みんなで目標に向かって協力して取り組むことで、プロジェクト全体の活動もより充実し、盛り上がっていくのではないかと思います。（英語文化コミュニケーション学科・2022 年度卒業生）

Q. プロジェクトの経験は社会人になった際、どのように活かされていますか。
（生活デザイン学科・3 年生）



今の自分の人生は、サガジョ盛り上げ隊プロジェクトの延長線にあることをしていると思います。入学式の壇上で新入生へプロジェクト紹介することがあったり、プロジェクト活動報告の場などで、多くの人の前に立ち自分たちのやってきたことや思いを伝えるということをしてきました。今は、多くの人に自分の思いを伝える、というところが俳優人生に活かされています。（健康栄養学科・2022 年度卒業生）



元々は自分の考えを曲げることが苦手なタイプでしたが、プロジェクト活動を通して身につけた協調性が、社会人になった今とても役立っていると感じています。チームで目標達成に向けて取り組む中で、他者の意見に耳を傾け、自分の意見を適切に伝えることでよりよい結論に導くプロセスが好きになりました。仲間とともに問題を解決できたときは、職場の雰囲気も良くなりますし、大きな達成感を味わうことができます。また、プロジェクトで発信する機会が多かったおかげで、人前で話すことへの抵抗感もなくなりました。さらに、自ら積極的に行動する姿勢も、プロジェクト活動を通じて身につけた力の一つだと思います。（英語文化コミュニケーション学科・2022年度卒業生）

Q. 学業とアルバイトに加えプロジェクトのスケジュールがぎりぎりですと両立が厳しいと感じたのですが、どのように調整しましたか？（健康栄養学科・2年生）



学業やアルバイトに加え、プロジェクトのスケジュールも重なり忙しいときは、事前の計画と優先順位の意識を大切にしていました。具体的には、次の

ような工夫をしていました。一週間単位でスケジュールを把握する（授業やアルバイトの固定スケジュールを最初に確認し、空いている時間をプロジェクト活動や準備に充てました。細かい予定はスマホアプリで管理し、漏れがないようにしました）。優先順位を明確にする（まず授業や試験を最優先に。次に締切が迫っているプロジェクトのタスク、ゼミの課題などに取り組みました）。「絶対に譲れないもの」と「調整できるもの」を区別することで、計画を立てやすくなりました。プロジェクト内での柔軟な工夫（対面で参加できない場合は、事前に **LINE** など考えを共有したり、資料作成など自宅でできる作業を進めました。）。メンバーとコミュニケーションを密にし、活動に遅れが出ないように調整しました。このように、計画・優先順位・柔軟性を意識することで、忙しい時期でも学業、アルバイト、プロジェクトを両立することができました。（英語文化コミュニケーション学科・**2022** 年度卒業生）